

# 保 険 の ひ り ば

## 平成28年度 ボランティア活動保険の加入はお済みですか？

「ボランティア活動保険」「ボランティア行事用保険」「福祉サービス総合補償」「送迎サービス補償」など平成27年度のご加入契約は、すべて平成28年3月31日で補償期間が終了します。平成28年度の保険加入につきましては加入漏れのないように、最寄りの社会福祉協議会にてお手続きを完了してください。



### ボランティア活動の事故防止・軽減のための10大ポイント

#### 1 体調が悪い時は決して無理をしないこと。

健康と体調は全ての基本です。体調が悪いときは活動を見合わせることも重要です。「無理をする」＝「自らケガをしに行く」「他人に迷惑をかける可能性がある」と認識しましょう。



#### 2 情報収集(事前の安全確認と日常点検)をしましょう。

活動場所や活動内容、往復途上の交通状況などの情報収集は、参加される活動のリスクを事前に予知するための基本です。収集した情報は全て事故の未然防止や軽減につながるといっても過言ではありません。

#### 3 活動に適した服装を！

活動される内容、気候、季節などを照らし合わせ、適した服装で活動することが事故防止の基本です。帽子→熱中症予防、履きなれた運動靴→動きやすく、転倒防止 軍手→切傷など軽微な事故防止につながります。

#### 4 自宅を出てから帰るまでが活動です。焦らず、気を抜かないこと。

集合時間に遅れそうなときは、連絡の上、焦らずに活動に向かいましょう。焦ると周りが見えなくなります。活動を終えてもホッとして気を抜かないこと。帰り道の事故も多く発生しています。

#### 5 活動前には準備運動、柔軟体操を！

ボランティア活動はスポーツと同じです。急激に動くと思わぬケガをすることがあります。体を十分にほぐし、あためてから活動を開始しましょう。



#### 6 責任者の説明にはしっかり耳を傾けること。

自分自身であらかじめ気づいていなかった危険を確認する機会です。また、当たり前の話であればあるほどしっかり耳を傾け、心に刻みましょう。

#### 7 疲れを感じたら遠慮せずに休憩を。 随時、水分補給をしましょう。

疲れたときは、注意力が散漫になり、慎重な活動ができなくなる可能性が高くなります。「疲れた」と実感する前に、「ちょっと疲れた」と感じた時に、周囲の人に遠慮することなく休憩をとりましょう。

#### 8 過信は禁物。今の自分にできることをあらかじめ把握しましょう。

「以前はこのくらいできたから今でも大丈夫」は危険です。今の自分にできることを自ら認識して、他のボランティアの方と協力して活動しましょう。ここまでやって大丈夫といった自己判断、過信は禁物です。

#### 9 特に足元注意。(転倒の防止)

足元への注意は事故防止の基本です。実際に発生している事故全体の2/3は転倒事故です。つまり、足元に注意を払っていれば、事故の2/3は防げる可能性があります。



#### 10 周囲の方と協力して、情報の共有を図りましょう。

ボランティア活動は一人で行うものではありません。他の活動参加者や、利用者や協力して行うものであることを認識しましょう。(重いものは複数で運ぶ、脚立に乗るなど足元が不安定な場合は支えてもらう、危険な場所の情報を共有するなど)活動中は、お互いに声を掛け合うことで、突発的な危険を回避することにもつながります。

ボランティア活動保険等についてのお問合せは、株式会社 福祉保険サービスまでどうぞ。

TEL/03-3581-4667 FAX/03-3581-4763 URL <http://www.fukushihoken.co.jp>

ボランティア活動保険等の補償制度は、社会福祉協議会およびその構成員・会員ならびに社会福祉協議会が運営するボランティア・市民活動センターなどに登録されているボランティア・ボランティアグループ・団体が加入対象です。